

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
Ⅰ.理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○共有はできているが、自身がないこともある。 ○理念に基づいて行動しているが、地域密着という点ではコロナ禍で十分にできていない。 ○毎日唱和し、十分に実践できている。			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○コロナ禍で地域との交流ができなかった。 ○日常的交流は、現状下でできなかった。 ○地域への情報の発信がコロナ禍もありできていなかったと思う。	コロナ禍での地域交流は難しい状況にあります。地域の活動も制限下での活動となっています。今後の感染状況をみながら計画していきましょう。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○書面開催のみであったことから、意見交換まではできなかった。 ○運営推進会議の内容を職員全員4がもっと共有できるようになれたらと思う。	今年度半ばまで書面開催となり、対面での話し合いはできなかったが、書面開催の文書を配布することでの情報の共有はできている。また、対面開催に切り替わった今、運営推進会議の内容を職員が周知できる取り組みを作って行きましょう。		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○メールでのやり取りが主となり、必要なやり取りはできている。 ○行政とのやり取りは、責任者だけであり、自ら行ったことはない。 ○行政文書が回覧で回ってくるので、情報は入っている。	行政からの情報は重要な内容が多く、常に確認することを心がけている。また、運営推進会議においては包括支援センターからも参加がことから、必要な時は助言を頂きながら、今ある協力関係を継続していきましょう。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○年2回の身体拘束の法定研修に取り組んでいる。 ○身体拘束をしないケアを日常としているが、離設による事故を防ぐために時間帯で施錠をすることがあった。 ○勉強会を開催したり、職員同士で情報共有を行い取り組んでいる。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<運営推進会議> A. 十分にできている。 研修機会の確保、施設内に留まらない研修機会の提供ができている。

6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○定期的な勉強会を開催し、質の向上に努めている。 ○研修に参加することで自己研鑽できている。 ○スタッフ同士で意見を出し合いながら、ケアを見直し、お互いの言葉かけにも注意を払っている。 ○勉強会で常に学習しているのにもかかわらずたまに強い口調で話をしてしまう。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ A. 充分にできている。 定期的な研修会への参加が援助の場面で出ているように思える。研鑽の機会をより多く作って欲しい。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○制度について学ぶ機会が今まであったが活用までは至っていないが研鑽の場をしっかりと確保し、必要時の実践に繋げていく。			
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○契約書・重要事項説明書に基づいて説明を行い、署名を貰っている。適時、変更があった場合も同意書で対応している。			
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○利用者や家族等からの意見は、管理者が窓口となおり、都度報告ができている。 ○直接の発信はコロナ禍もあり、十分にはできなかったが、文書等で発信したり、意見をケアに変えていくことができた。 ○家族の方がいつでも要望等が言えるよう連携を取り、そのことを職員間でしっかりと共有することができた。		A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ B. ほぼできている。 利用者や家族へのアンケートなど意見交換が一方的な情報発信にならないような双方向のやり時の機会も検討して欲しい。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○年2回は最低でも面談を実施している。直接、面談で言えないことは文書にて対応するなども行っている。			

11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	☐ 定期的な事業所内勉強会や外部研修を積極的に設け、向上心に繋げている。 ☐ 処遇改善の見直し等、働きやすい環境改善を図ってくれている。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ A. 充分にできている。 職員に対して、処遇改善の見直しを図る等働きやすい環境づくりに取り組んでいる。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	☐ 外部研修(ZOOM)等の開催を定期的に発信してくれている。 ☐ 外部研修が夕方からが多く、家庭の都合で参加が思う様にできなかった。 ☐ 資格取得を目指すことの大切さ学べている。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ A. 充分にできている。 パソコンを使った研修の機会を多く取り入れていることが伺え、家庭の都合で参加できていない職員への今後の相違工夫も伺える。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	☐ コロナ禍であり、地域活動まではできなかったが、リモートを使った交流や研鑽、情報交換はできている。			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	☐ 傾聴の姿勢を常に持ちながら、変化に対しての気づきや共有を図るように関係性を作っている。			
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	☐ コロナ禍のため、長い時間の面会ができないが、窓越し等でも来所時には、話をしながら情報収集に努めた。 ☐ 利用者様と家族とのつながりを絶やさぬように電話連絡や機関紙の発行を心がけた。 ☐ 馴染んだ物を部屋に置いてもらったり、会話でも本人様に関することを意識して声かけをしたりしている。 ☐ ドライブ等で住み慣れた場所等を訪ねることもできたらと思っているが、できていない現状がある。	コロナ禍であり、面会が厳しく制限されている状況において感染対策を図りながら、できるだけ家族とのつながりを絶やさない姿勢が見られる。機関紙や月次の報告書を用いて今後も情報を発信したり、状況を見ながら地域や家族との交流を作っていきます。		

Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○利用者の言葉に注意を払いながら状態の把握や意向の把握に努めるように取り組んでいる。			
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○カンファレンスにて話し合いを定期的に実施している。 ○共有ノートを作成し、スタッフ全員が情報を回覧できるようにしてあるのでできている。 ○1回/月のユニットカンファレンスで意見を出し合ったり、支援の共有や計画の見直しを図ることができている。 ○全てのスタッフが家族とは関りを持てていない。	定期的なカンファレンスを行い、スタッフ全員で情報を共有する取り組みが見られる。家族とのやり取りがコロナ禍であることから減ってきている分、情報提供の在り方にも工夫がみられるので続けて行きましょう。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ B. ほぼできている。 家族との意見交換の機会を増やし、よりよい介護計画作成に取り組んで欲しい。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○申し送りノートや朝夕の申し送り、ヒヤリハットレポートの提出による事故防止に努めている。 ○定期的なカンファレンスで問題の共有を図ることができた。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ B. ほぼできている。 様々な書類を作成しながらも、職員がしっかりと情報が共有できる機会やツールの開発に今後も取り組んで欲しい。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○都度都度家族と連絡を取り、必要な情報等は入手するようにしている。 ○カンファレンスにて情報を共有しながら実践している。 ○コロナ禍でアンケートや家族との交流ができず、ニーズの把握まで十分に対応できなかった。	家族とのコミュニケーションを密に取ることで、支援に対する情報が入り、選択肢が広がります。カンファレンスにて支援や対応について取り組まれている。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○コロナ禍で地域との交流や情報収集活動の機会がなく、社会資源の把握や活用に結びつけられなかった。 ○地域環境の把握に努め、外出等を計画するなど対応ができた。	コロナ禍で、地域との交流が難しい中で、少人数でもできる外出等の計画や楽しみのもてるイベントを計画している。地域との交流はコロナ感染状況をみながら検討していきましょう。		

21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	☒ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○かかりつけ医の受診・往診ができ おり、定期的のみならず、異常時の 相談や対応がとれ、連携が図れて いる。			
22	入退院時の医療機 関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。あるいは、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている。	☒ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○安心できるよう本人家族の方へ十 分な説明を行い病院へ相談を行う ことでの関係作りを行っている。 ○入院時は看護サマリーを医療機関 に送付したり、連携室との話し合いを 行うことでの関係作りに努め ている。		☒ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<運営推進会議> A. 十分にできている。 利用者が適切な治療が 受けられるように 情報交換や関係作りが 出来ている。
23	重度化や終末期に 向けた方針の共有 と支援	重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明し ながら方針を共有し、地域の関係者と共に チームで支援に取り組んでいる	A. 十分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○人生最終段階における終末期介護 について、できている方とできてい ない方がいる。 ○終末期の対応については指針が設 けられているが共有が十分に図れ ていないこともある。 ○地域の関係者と、重度化における 方針の共有は図れていなかった。		A. 十分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<運営推進会議> B. ほぼできている。 様々な書類を作成しなが らも、職員がしっかりと 情報が共有できる機会や ツールの開発に今後も 取り組んで欲しい。
24	急変や事故発生時 の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を 定期的に行い、実践力を身に付けている	☒ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○マニュアルを作成し、急変や事故 発生時の対応ができるように、研修 会の開催や訓練を計画している。			
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問 わず利用者が避難できる方法を全職員が 身につけるとともに、地域との協力体制を 築いている	☒ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○いくつかの訓練を行い、対策は立て ているが地域との協力体制には不 安が残る。 ○訓練を行い、スタッフも参加できな い時は、文書にて共有を図ることが できている。 ○水害避難訓練は、今年始まったば かりなので、全員が十分に対応 できるように訓練を繰り返していく必 要がある。	地域の実情から、地域の協力が非常災害 時は難しいことが想定されることから、自主 避難訓練は重要です。避難確保計画は今年度 から実施されているように、引き続き、全職員 が対応できるように訓練を続けていきましょう。	☒ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<運営推進会議> A. 十分にできている。 利用者の安全を守る行 動としての訓練はしっか りできている。職員間の 情報共有も訓練の結果を 共有している。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

26	一人ひとりの尊重 とプライバシーの 確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライ バシーを損ねない言葉かけや対応をして いる	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○傾聴、受容、共感のもと対応に努め るように取り組んでいる。 ○気をつけてはいるものの声かけの 面で反省も多々ある。 ○接遇委員会を創設し、毎月の目標 を設定したことで以前より、言葉か けには意識するようになった。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ A. 充分にできている。 優しい声かけやコミュニ ケーションの勉強が しっかりと伺える。委員会 や毎月の目標設定 もより良い環境を作る取 り組みが出来ている。
27	日々のその人らし い暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりの日常生活における希 望や意向、暮らしのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○出来る限り、時間にゆとりを持った 対応ができるように、心がけている。 ○接遇目標を立てるなどの取り組みを 実施している。			
28	食事を楽しむこと のできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひと りの好みや力を活かしながら、利用者と 職員が一緒に準備や食事、片付けをして いる	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○コロナ禍もあり、広くお手伝いをお 願いすることができてはいないが、 お盆拭き等出来る事を少しでも多く 提供している。 ○季節行事を計画し、少しでも楽しみ のもてる食事の時間の提供を計画 した。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ A. 充分にできている。 機関紙にて一人ひとりの 好みや力を使った 取り組みが行えている。
29	栄養摂取や水分確 保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状 態や力、習慣に応じた支援をしている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○水分摂取量や食事摂取量の記録や 摂取量の少ない方への声かけなど 個々に合わせた対応ができている る。			
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎 食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力 に応じた口腔ケアをしている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○義歯の方は、専用のブラシを使うな ど対応ができている。また、自立で される方も実施後の磨き残し がないかなどチェックを行っている。 ○仕上げ磨きまで実施している。 ○必要な方へは、歯科医の往診を依 頼するなど口腔状態の維持に努め ている。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ A. 充分にできている。 誤嚥性肺炎予防に対して の取り組みとして口腔内の 清潔保持に取り組んでお り、必要な方には専門医 の受診も行っている。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一 人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援、便秘の予防等、個々に応 じた予防に取り組んでいる	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○訴えの有無に関わらず、トイレへの 誘導や確認を行うよう取り組んで いる。 ○排泄記録の共有を常に行い、適切 な対応ができる ように心がけている。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ A. 充分にできている。 記録の管理や一人ひとり に合わせた介護の 在り方などが共有できて いる。便秘の方の出で

				○個々に定時の声かけ、汚染時の交換等、清潔保持に努めるようにしている。			いない期間の共有や対応もできている。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○午前中に集中することもあるが、午後からの時間の案内もできおり、個々に沿った対応ができている。			
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○生活のリズムは一人ひとりに合わせて実践できている。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○薬の必要性の理解はできているが、副作用については十分に理解できていないところもある。 ○情報共有ノート等を使い、服薬内容については理解に努めるようにしている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<運営推進会議> A. 充分にできている。 一人ひとりの薬の配薬や服用前の確認動作のように、安全な服薬管理を行っている。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○午前中は軽く体を動かし、午後からは、散歩や手作業などのレクを行い、気分転換を図るように取り組んでいる。 ○できるだけ声をかけ、笑顔が見られる毎日に取り組んだ。 ○時間に余裕がないこともあり、充分のできているとはいえない。 ○日常的なケアでできないことがあった。	制限下の中で、できる範囲の中でのレクレーションや行事を計画し、実施していました。一人ひとりの個性を生かした取り組みを今後も続けていきましょう。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○コロナ禍で外出の機会が少なかった。 ○施設周辺の散歩程度が限界であった。 ○少人数ずつの近所への外出を計画したが、一人ひとり、そして全員とまではいかなかった。 ○車輛により、外出できる人数に制限がある。	コロナ禍で思い切った外出ができない中、その日の天気や状況近隣へ散歩に出かけたり、ウッドデッキで外気浴や茶話会を開くなどの計画が立てられている。できる範囲の中での取り組みを継続していきましょう。		

37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○事業所内では、金銭管理は基本しないことから、所持等が行えていない。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○要望があれば、すぐに対応していることや季節に応じた挨拶状の作成等も実践している。			
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○季節に合わせた飾りつけを行い、四季を感じれるように取り組んだ。 ○利用者の参加を促しながら、少しずつではあるができている。 ○完全個室であり、それぞれのスペースがあり、プライバシーが守られている。デイルームも明るく、清潔な印象をもってもらえるように取り組んでいる。 ○気の合う方々と隣同士を検討したり、四季の壁飾りなど、居心地よく過ごしていただけるように心がけている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ A. 十分にできている。 季節感を感じる施設環境作りを利用者と一緒に取り組んでいる。楽しみのもてる空間づくりができている。
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目（利用者一人ひとりの確認項目）							
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○本人の思いを汲み取りながら、意向に沿った支援ができている。			
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○家族や本人から社会的背景の情報を収集するように、ちょっとした会話の中でもアセスメントを意識している。			
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○認知症の進行状況の影響もあり、自分から「こんな生活をしたい」という申し出は少ない。そのため、できるだけ家族等から情報を収集しながら対応しているが、コロナ禍もあり十分とはいえていない。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ B. ほぼできている。 コロナ禍であることからできる範囲での情報収集が出来ている。また、毎週訪問看護との利用者の

				○定期的な訪問看護との連携を図ったりすることで常に健康を最優先に実施できている。 ○日々の記録を常に職員間で共有しながら、変化にもすぐに対応できるように取り組んでいる。 ○カンファレンスを開くことで、ケアの標準化を目標に実施しているが、もう少し時間が必要。			健康状態の共有が行えている。
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	A. 充分にできている ☐ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○居室やホールへ自由に行き来できるようになっており、自分のペースで生活ができるように尊重している。			
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近（自室等）に持つことができている	☐ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○環境の変化には注意をしつつ、馴染みなもの安心できるものを設置することで安寧を図っている。 ○ご家族の写真を飾ったり、アクセサリを身に付けたりと自分らしさを尊重できるように取り組んでいる。		☐ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<運営推進会議> A. 充分にできている。 認知症の理解を踏まえた環境の変化の重要性の理解と自分らしさへの尊重ができている。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催（祭）事に参加することができている	A. 充分にできている B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○コロナ禍のため自由な行動は制限され、思うような外出はできていなかった。 ○催事には、感染対策を徹底した上で出席していただいた。 ○皆様自身からの意向、希望によっての外出等は意見を聴き取れていないこと、コロナ禍もありできなかった。	コロナ禍で思い切った外出ができない中、その日の天気や状況近隣へ散歩に出かけたり、ウッドデッキで外気浴や茶話会を開くなどの計画が立てられている。できる範囲の中での取り組みを継続していきましょう。		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	☐ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○不安のないように、できること、できないことを把握し、できる事を尊重した取り組みを実践。情報の共有を図っている。			
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	☐ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○気の合う方々と話をしたり、レクリエーションをしたりすることでいきいきとした生活が送れるように取り組んでいる。		☐ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<運営推進会議> A. 充分にできている。 和やかな雰囲気づくりのために利用者間の

				○他者とコミュニケーションが取りつらい方へは、職員から積極的に声をかけるようにしている。 ○できるだけ会話の機会を増やすように取り組んでいる。			コミュニケーションの機会への配慮や機会の提供ができています。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	A. 十分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○関りについては、一人ひとりの考え方も違い、関りをあまり持ちたがらない方もいることから、一人ひとりに合わせて対応している。 ○コロナ禍であり、地域交流はできていない。	地域交流はコロナ禍で、できていないが、事業所内でできる取り組みを一人ひとりに合わせて実施している。一人ひとりに合わせた対応を今後も継続していきましょう。		
49	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	☒ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○入居者同士や職員の顔を認識され、安心した月日を送られている ○時間に余裕がないこともある。 ○不安を取り除くことを目的に、優しい声かけ、笑顔で常に心がけている。 ○入居者のみならず、面会に来られる家族への安心も意識しながら日々の交流や対応を心がけている。	不安を取り除くことを目的に、常に声をかけ、楽しみのもてる生活を目指し取り組んでいる。家族へも会えない環境下の中、毎月の情報紙にて対応したり、機関紙や電話を使って様子を伝える工夫がなされている。安心した生活のために今後も継続していきましょう。	☒ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ A. 十分にできている。 利用者の笑顔の重要性に対して、理念の唱和や安心して過ごせる時間と場所の提供が行えている。

(参考様式4)

目標達成計画

事業所名

グループホーム馥郁

作成日

令和 5 年 3 月 10 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する 期間
1	9	利用者や家族との意見交換の機会が少なく、一方向の情報発信となっていた。	①利用者や家族との意見交換がいつでもできる。 ②意見に対して速やかに対応することができる。	①アンケートや家族面談を計画し、現状の説明や要望等の意見交換の場を増やしていく。 ②改善したことを機関紙や事業所内掲示物にて報告する。	12 ヶ月
2	2 45	地域密着型サービスであることから地域との繋がりがコロナ禍少なくなっていた。	地域施設としての役割の認知や連携における地域活動への参加の機会を作る。	①運営推進会議に対しての課題の提供や情報収集に努める。 ②地域行事や地域活動への参加を促進する。	12 ヶ月
3	23	重度化や終末期に向けた取り組みの話し合いが不足している。	医療機関との連携を図ることが出来る。	①訪問看護との連携を図り、早期の対応を実践する。 ②職員の研修機会の確保や家族の意思の確認を行っていく。	12 ヶ月
					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。